

自己評価・学校関係者評価報告書

令和5年度

令和 5年 4月 1日から

令和 6年 3月31日まで

令和5年度 自己評価書

～教職員研修 および「学校教育についてのアンケート」結果をもとに～

中央学園高等専修学校

1. 本校の教育目標

「一人ひとりの命輝く教育をめざして」

- ・「愛と誠」の建学の精神を基盤とし、国民として社会生活が円満にできるために必要な知識と技術を習得させ、健康で豊かな心情を持ち、時代の要請に応え得る人材を育成する。

2. 重点的に取り組む目標及び計画

- ・基礎学力の充実ならびに専門技術の習得
- ・基本的生活習慣の確立
- ・就学指導の徹底
- ・保護者との密接な連携
- ・就職・進学対策および五ヶ年一貫教育の浸透
- ・募集活動と広報活動の強化

3. 評価項目の達成及び取り組み状況

評価項目	取り組み状況
学習指導と教科指導	<p>① 定期テストの成績を参考にして個々の生徒の基礎学力を十分に把握したうえで、生徒がわかる授業を行い、学力の向上に努力させる。</p> <p>② 観点別評価の導入により、テスト以外の努力、頑張り进行评估し、専門技術の習得にも力を入れ、主体的に学ぶ態度を養う。</p>
生徒指導と生活指導	<p>① 校風を理解し、規則正しい生活習慣を身につけさせ、楽しい学園生活が送れるよう努力する。</p> <p>② 各学年各クラスでのホームルーム活動に取り組み、個々の生徒を細かく熟知し、より主体的に行動することができる生徒の育成をめざす。</p>

人権教育	<p>① 「いじめ」をはじめとする、いかなる人権侵害も許さない意識を育てる。</p> <p>② 支え助け合う生徒集団の育成に努める。</p>
就学指導	<p>① 一人ひとりの生徒の特性を理解し、三年間で履修単位を完全に修得させ卒業させることを目標として教科指導、技術指導にあたる。</p> <p>② 多様な生徒が在籍することを理解し、常に生徒の立場にたって指導する。欠席が多い生徒については学年会議で協議を重ね、退学に至らないよう最大限努力する。</p> <p>③ 教室で授業を受けることが困難な生徒へのサポートとして、個別学習クラスを設け、心の安定をはかる。</p>
保護者との連携	<p>① 電話や文書、中学校との連携、家庭訪問などケースバイケースによって密接な連絡をとりながら生徒の個性の伸長を図るように努める。</p> <p>② 遅刻、早退、欠席、不登校等、個々の生徒について実態を十分把握し、保護者との連携を密にし、その対応に際しては十分配慮する。</p>
進路指導	<p>① 入学した生徒が三年間の学習の中で得た知識・技術が十分いかされ、生徒の適性や希望に合った進路を選択させる。</p> <p>② 併設する中央ITビジネス専門学校への内部進学については、五カ年一貫教育の特性がいかせることを周知し、進学を勧めていく。</p>
募集活動と広報活動	<p>① 本校の内容・特色をより多くの先生に知ってもらうため、中学校を定期的に訪問し、在校生の状況を報告する。</p> <p>② 生徒の成長と卒業が、更なる募集につながることを認識し、一人ひとりの学校生活の充実に全力を挙げる。</p> <p>③ SNSによる広報を行い、体験入学・学校説明会・授業見学会に数多く参加してもらう。本校をより良く理解してもらえよう、中身の充実と真摯な対応を心掛ける。</p>

令和5年度 学校関係者評価書

中央学園高等専修学校

1. 評価項目別の学校関係者評価

〔1〕学習指導と教科指導

- ・多様な生徒が在学し、習熟度別や個別の指導が不可欠であるが、個々の状況や学力・能力を見極め、課題に応じた指導を工夫している。
- ・実習キャリアの授業において、ユニークな講座を展開し、生徒の興味・関心をひきつけながら、取り組まれている。

〔2〕生徒指導と生活指導

- ・問題行動や停学処分などは少なくなってきたが、体調不良や生活リズムの乱れから、遅刻・欠席が目立つ生徒があり、改善に努力する必要がある。
- ・登校しづらい生徒に対して、オンデマンド授業やクラスルームを活用して、家庭での学習と体調管理を行うことが大切である。

〔3〕就学指導

- ・中学生時から学校へ行きづらい面を持つ生徒も多くなってきたが、当人のペースに合わせ登校させる個別学習クラスを設け、対応している。
- ・遅刻者を減らすための早朝登校指導や、欠席者に対する補習・補講など、就学指導に対する体制を強化することが求められる。

〔4〕保護者との連携

- ・学校の教育方針を理解してもらい、保護者への協力を得ることは必要不可欠と捉え、良好な連携が築けている。
- ・一方で、連絡や協力を取りにくい家庭もあり、家庭訪問なども必要となってくる。

〔5〕進路指導

- ・コロナ禍以降、進学する生徒が多くなっており、おおむね希望する学校へ合格しているが、ファッションクリエイター科や保育科からは卒業後の進路を変更する者もあり、それぞれが学びたい学校を選んでいけるよう導いてあげなければならない。
- ・明確に就職を希望する生徒は少なくなっており、アルバイトやフリーターでよいという考え方も見受けられ、今後の課題といえる。

[6]募集活動と広報活動

- ・オープンスクール・体験入学の参加者を増やしていくことの対策を早急に考えていかなければならない。
- ・ホームページの更新とリニューアル、インスタグラムの活用など、SNSでの広報活動の更なる充実をはかり、周知してもらいたい。

2. 学校関係者評価総評

令和6年度入学生から授業料が改定されることとなり、PCの入れ替え、教室のリフォーム、ネットワークの強化など施設・設備の改修により、生徒の学習環境が整備されることは大変望ましいことである。

保護者からの学校に対する要望や意見については、おおむね好評価を得ており、生徒各人のこれまでの学校生活から比べれば、生活態度・学習意欲・学力全般・専門技術の習得・人間関係・将来の目標など伸長もしくは改善されているが、もっと授業に集中できるようにしてほしいという指摘もあり、見過ごせないところである。

教職員のアンケートからは、生徒情報の共有が不十分なところがあり、連携を強化する必要があるが、個々の回答からはもっとより良い授業ができたのではないかなど、今後への熱意も感じられ、評価に値する。

高等専修学校は、職業教育はもとより、低学力・不登校・問題行動・コミュニケーション能力・基本的な生活習慣など様々な支援体制が求められることを十分に再認識し、生徒または保護者にとっての最後のよりどころとして、更に確たる地位を築かれることを期待する。

3. 学校関係者評価委員会

- ・企業 および 関係団体代表 2名
- ・高等学校代表 1名
- ・中学校代表 1名
- ・地域住民代表 1名

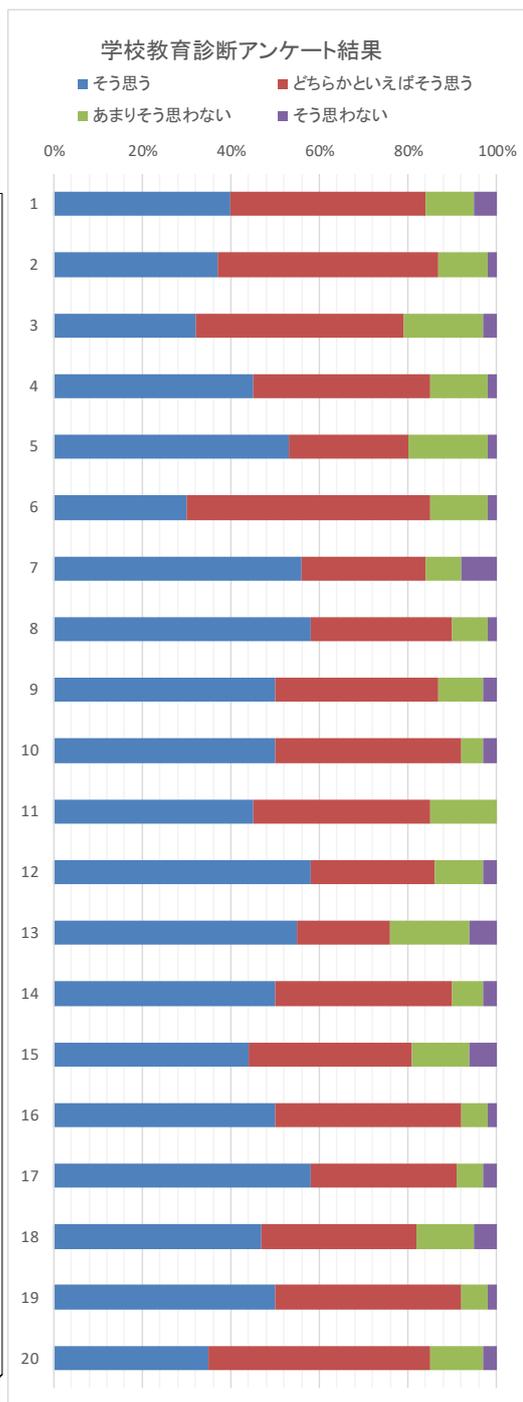
4. 学校教育自己診断(保護者用) 集計結果

令和6年1月実施

中央学園高等専修学校

【アンケート項目】

- 1 子どもは学校へ行くのを楽しみにしている。
- 2 学校の雰囲気が良い、生徒が活き活きしている。
- 3 学校は教育方針をわかりやすく伝えている。
- 4 この学校は、他の学校にない特色ある授業や行事がある。
- 5 先生は生徒をよく理解し、親身に接してくれている。
- 6 子どもは、授業はわかりやすいといっている。
- 7 先生は子どもの評価を適切・公平に行っている。
- 8 学校は、保護者の相談に適切に応じてくれる。
- 9 先生は子どもの間違っただけ行動を厳しく指導してくれる。
- 10 学校はいじめや暴力のない学校づくりに取り組んでいる。
- 11 学校の生徒指導方針は、保護者に示されている。
- 12 学校は将来の進路や職業について、適切な指導を行っている。
- 13 学校は進路に関して、家庭への連絡や適切な情報提供を行っている。
- 14 学園祭や体育大会・宿泊行事等の学校行事は、積極的に参加できるように工夫されている。
- 15 部活動は活発に行われ、熱心に取り組んでいる。
- 16 学校は子どもの命を大切にす心や社会のルールを守る態度を育てようとしている。
- 17 地震や台風に対して、迅速で適切な対応を行っている。
- 18 学校は家庭への連絡や意思疎通を積極的に行っている。
- 19 学校が保護者に出す文書・事務連絡は適切である。
- 20 ホームページは見やすく構成され、適切な情報発信がなされている。



<保護者の感想や意見>

- ・中学校の頃の子供からは想像できないほどの成長と経験ができたと感じており、先生方に感謝しております。
- ・若い先生の意見をもっと取り入れると、さらに子どもたちが通いやすい学校になるのではないかと思います。
- ・いつも楽しく学校に行ってくれて、安心して子どもを預けられています。ありがとうございました。
- ・「騒がしい生徒がいるので、授業に集中できない」と言っていた。もう少し注意してほしいと感じます。
- ・長期休暇の間も、もう少しクラブ活動をしてほしい。長い休みがあり、暇に感じることもあるようです。

【アンケート結果について】

おおむね肯定的な意見が多いが、「そう思う」という回答の割合が最も少なかったのが、授業のわかりやすさであったのは大きな課題である。勉強が苦手であったり学力が伸び悩んでいる生徒が多いなか、さらにICT導入と環境整備を行い、より丁寧で分かりやすい授業に取り組む必要がある。また進路に関する項目では、家庭への情報提供が不十分ではないかという指摘があり、本人への進路指導はもちろん、保護者ともども生徒の最適な将来についての情報を伝えていきたいと考える。

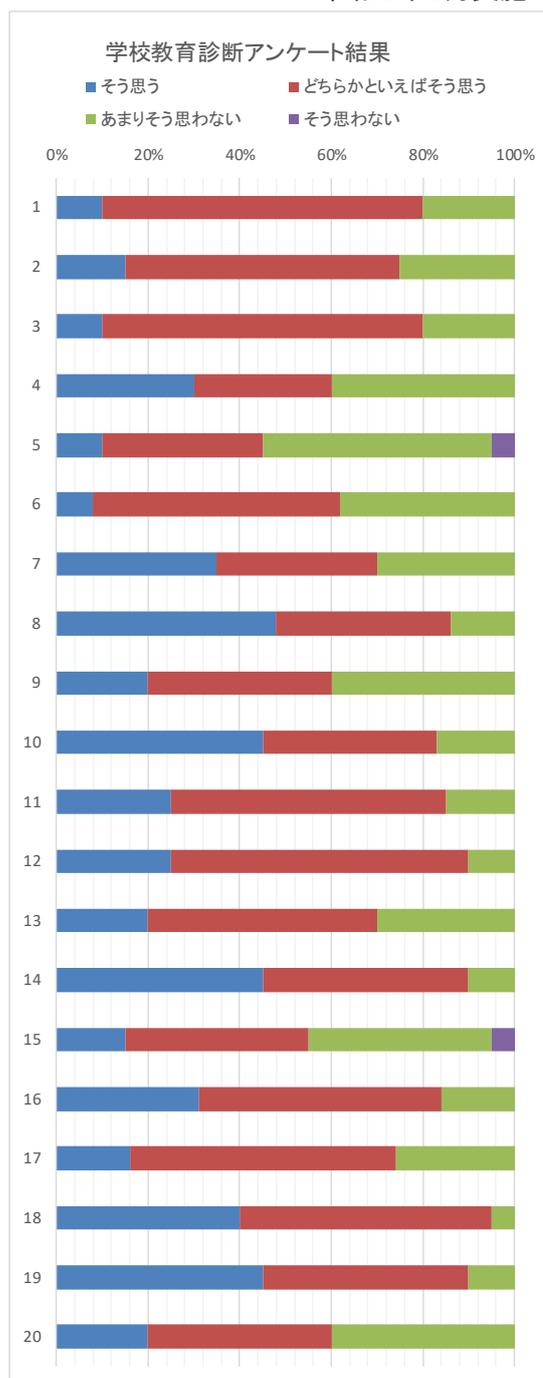
5. 学校教育自己診断(教職員用) 集計結果

令和6年3月実施

中央学園高等専修学校
中央ITビジネス専門学校

【アンケート項目】

- 1 生徒は学校へ行くのを楽しみにしている。
- 2 生徒は学校内で活き活きしている。
- 3 先生は生徒を理解している。
- 4 本校は、他の学校にない特色ある教育活動に取り組んでいる。
- 5 学校は教育方針をわかりやすく伝えている。
- 6 生徒は授業はわかりやすいといっている。
- 7 先生は子どもの評価を適切・公平に行っている。
- 8 学校(先生)は、保護者の相談に適切に応じている。
- 9 先生は子どもの間違っただ行動を厳しく指導してくれる。
- 10 学校はいじめや暴力のない学校づくりに取り組んでいる。
- 11 学校の生徒指導方針は、保護者に示されている。
- 12 学校は将来の進路や職業について、適切な指導を行っている。
- 13 学校は進路に関して、家庭への連絡や適切な情報提供を行っている。
- 14 学園祭や体育大会・宿泊行事等の学校行事は、積極的に参加できるように工夫されている。
- 15 本校の部活動は活発である。
- 16 学校は子どもの命を大切にす心や社会のルールを守る態度を育てようとしている。
- 17 地震や台風の対応について、生徒や保護者に対応マニュアルを通知している。
- 18 学校は家庭への連絡や意思疎通を積極的に行っている。
- 19 学校が保護者に出す文書・事務連絡は適切である。
- 20 学校のホームページは適切に更新され、生徒募集に繋がる情報発信になっている。



<教職員の感想や意見>

- ・いかに学びの楽しさを知ってもらうか、試行錯誤の1年だった。授業はキャッチボールだとつくづく感じます。
- ・生徒の可能性を少しだけでも広げていけるよう、また生徒が自分自身を好きになれるよう教えていけたらと思います。
- ・自分がやりたい授業スタイルにこだわってやってきた。生徒にとってはプラスになったと思うし、成果も目に見えたので良かったが、授業の準備に昨年の倍以上の時間を費やした。教員の本分としてはそれで問題ないが、その他の仕事が多くなり、とても忙しかった印象です。
- ・校務、作業の効率化を図り、生徒と向き合う時間をたくさん作ることが目標です。
- ・自分の授業がどのように受けとめられているか、生徒の意見を直接聞く場面やアンケートをとればよかった。
- ・次年度の教科担当を早く知らせてほしい。入念に教材研究や準備をしたい。
- ・生徒の情報に対する教員間の共有が不十分に感じるところがあり、職員会議等を通じて連絡を密にしたい。

【アンケート結果について】

「そう思わない」はほとんどないが、「そう思う」という回答が少ないのも課題だと捉えている。全体的に生徒や保護者の期待に応えられていると思うが、さらに自信をもって教育活動に推し進めていけるよう、教職員が一体となって取り組んでいかなければならない。

令和5年度 自己評価書

～教職員研修 および「学習についてのアンケート」結果をもとに～

中央 I T ビジネス 専門学校

1. 本校の教育目標

「一人ひとりの命輝く教育をめざして」

- ・ 望ましい社会的連帯感育成の基盤を「愛と誠」に求め、豊かな人間性と誠実な心情を育成する。
- ・ 「蛍雪の誓い」を教育理念の根本に位置づけ、たゆまざる努力により人間的教育を身につけるとともに、進んで自己の可能性を追求しようとする意欲・態度を育成する。
- ・ 高度な技術の習得を目指し、自己を高めようと自主的積極的に努力する態度を育成する。

2. 重点的に取り組む目標及び計画

- ・ 学習指導の充実ならびに専門技術の熟達
- ・ 基本的生活習慣の確立
- ・ 人権意識の育成
- ・ 進路指導の充実
- ・ 募集活動の強化ならびに五ヶ年一貫教育の確立

3. 評価項目の達成及び取り組み状況

評価項目	取り組み状況
学習指導	① ITスキルの習得とビジネス知識の理解へ向けて、主体的・積極的に学ぶ姿勢を養う。 ② 基礎学力の向上に努める。
学生指導と生活指導	① 学生の生活実態や心情を把握し、素早い情報の提供による、一致した指導に努める。 ② 「時を守り、場を清め、礼を尽くす」を最重点目標として取り組む。

人権教育	<ul style="list-style-type: none"> ① 「いじめ」をはじめとする、いかなる人権侵害も許さない意識を育てる。 ② 支え助け合う学生集団の育成に努める。
進路指導と学生支援	<ul style="list-style-type: none"> ① 最適な進路決定ができる力を養う。 ② 支援を要する学生の進路について深く理解し、開拓していく必要がある。 ③ 保護者との連携を深め、進路保障に努力するとともに、メンタルケアを含めたサポート支援体制を充実させる。
教育環境	<ul style="list-style-type: none"> ① 学生がより良い空間で学習への感性を磨けるよう、また有意義な学校生活が過ごせるように、安心安全な環境整備に努める。 ② 清掃活動の意義や大切さを理解させ、校内美化に取り組む姿勢をもたせる。
募集活動	<ul style="list-style-type: none"> ① オープンキャンパス・学校説明会を数多く開催し、本校をより良く理解してもらおう。 ② ホームページやブログの充実に努める。 ③ 本学園五ヶ年一貫教育の集大成の場として、中央学園高等専修学校の生徒に対し、内部進学を勧める。

4. 自己評価と今後、取り組むべき課題

- ・ 各企業からの求人は年々増加し、就職内定率は100%にほぼ近い状況ながら、学生や保護者からの要望も高まりつつあり、進路決定の難しさがある。進路指導のさらなる強化が求められ、ボランティアや校外活動・課外活動にも積極的に参加させ、職業観や就職への意識を高める必要がある。
- ・ 支援を必要とする学生の割合が増えており、学生一人ひとりの学力に少なからず差があることに課題はあるが、丁寧な指導ときめ細かな関わりを持つことを教職員全員が徹底し、今の学生の実態やニーズに合った授業内容や環境を整え、学習面だけに限らずあらゆる面で個々の能力や考え方を伸ばし、レベルアップをはからなければならない。

5. 学習アンケート(学生用) 集計結果

令和6年2月実施

中央ITビジネス専門学校

【アンケート項目】

<授業と学習活動について>

- 1 あなたは、学習に対して意欲的に取り組んでいますか。
- 2 IT科目の授業は、よく理解できていますか。
- 3 ビジネス科目の授業は、よく理解できていますか。
- 4 専門科目(近大科目)の授業は、よく理解できていますか。
- 5 先生は質問や相談に丁寧に応じてくれると思いますか。

<行事について>

- 6 自然体験学習(鶴見緑地BBQ)はよかったですか。
- 7 社会見学(和歌山方面)はよかったですか。
- 8 スポーツ大会はよかったですか。
- 9 学園祭はよかったですか。
- 10 学外での研修(職場体験・職業体験など)はよかったですか。

<進路に関する取り組みについて>

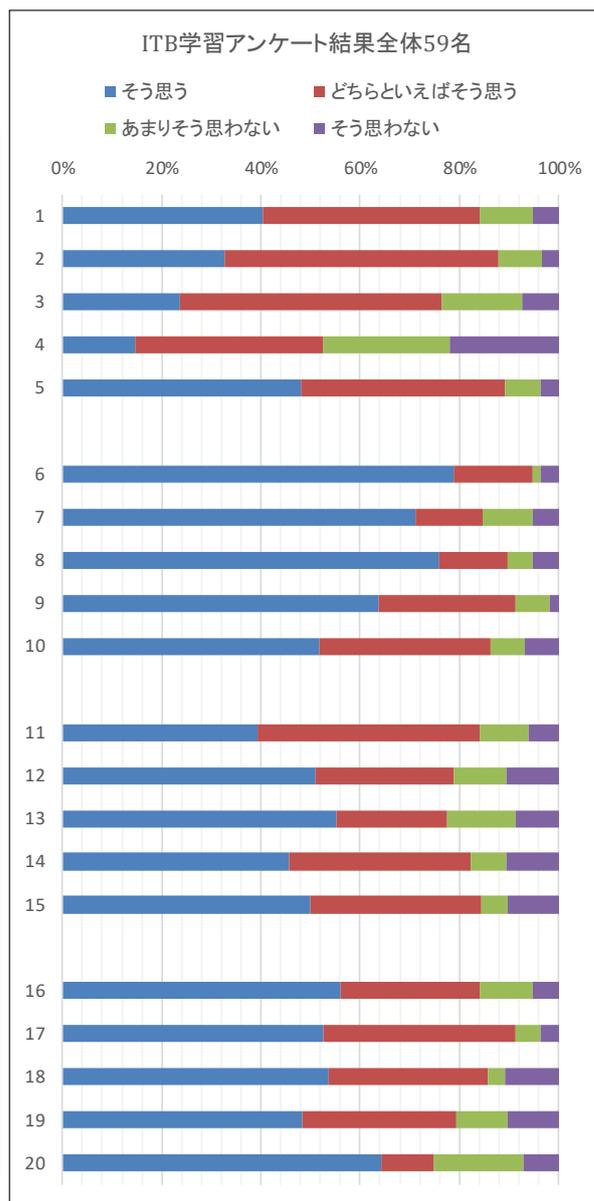
- 11 企業や事業所での取り組みは満足できるものでしたか。
- 12 ITB集中講座は満足できるものでしたか。
- 13 進路に関するガイダンスは満足できるものでしたか。
- 14 ボランティア活動は満足できるものでしたか。
- 15 インターンシップ研修は満足できるものでしたか。

<学校生活について>

- 16 マナーやルールを守るように取り組んでいますか。
- 17 行事や様々な活動でまわりの人と協力して取り組んでいますか。
- 18 清掃活動や環境美化に力を入れて取り組んでいますか。
- 19 先生に気軽に相談できる雰囲気があると思いますか。
- 20 ITBでの学生生活は満足のいくものですか。

<感想や意見>

- たくさんの仕事があってよかったし楽しかったです。
- 様々な経験をして少しずつ成長しているように感じることができました。
- 就活でも先生方のサポートがあってうまく内定が取れてよかったです。
- 色々なことが学べてとても楽しかったです。ありがとうございました。
- 良い学校生活を送ることができました。
- 2年間の学校生活楽しかった。
- 企業の話がむすかしかったです。
- ガイダンスがじごくだった。
- 宿泊研修がしたかった。



【アンケート結果について】

<授業と学習活動について>

学習に対する意欲、先生は質問や相談に丁寧に応じてくれると思う学生の割合は9割である。専門(近大)科目の理解に課題が見られる。

<行事について>

肯定的意見が多く、自然体験学習・社会見学・学園祭・学外での研修の満足度が高い。

<進路の取り組み>

企業や事業所での取り組み、ボランティア活動、インターンシップ研修の満足度が高い。

<学校生活について>

マナーやルールを守り、行事や活動でまわりの人と協力して組んでいる学生の割合が高く、学生生活の満足度は約82%の学生が肯定的である。

※近年、学生の様々な個性や能力に応じた多様な進路指導に取り組んでいる。
さらに適性を活かした、きめ細かい就職支援活動が望まれる。

令和5年度 学校関係者評価書

中央 IT ビジネス専門学校

〔総評〕

中央ITビジネス専門学校は、近畿大学短期大学部との併修制度を取り入れながら、専門学校生としての技術の習得と、短期大学生としての教養を身につけることを第一の目標としているが、これを両立することは学生にとって簡単なことではなく、近大の卒業をめざせる学生が少なくなっていることは課題となる。

しかし、IT科目・ビジネス科目・近大科目・放課後のゼミナール、それぞれに基礎から応用へと確実にレベルアップしていけるよう、きめ細かな学習指導がなされていること、学業だけでなく様々な体験や経験ができるよう課外活動にも力をいれていること、綿密な進路指導により高い就職内定率を維持していること、などによって、中央学園高等専修学校からの内部進学生は年々増加してきている。

一方で、中央学園の在籍生徒が減少していながら、支援を要する生徒の割合は増えていることから、内部進学生への支援体制の充実は急務といえる。

外部の高校からの入学も期待したいが、内部進学生にとっては後藤学園の五ヶ年一貫教育の集大成となる専門課程において、学生個々の特性をしっかりと見極め、進路決定できるようサポートしてもらいたい。

○ 学校関係者評価委員会

- ・企業 および 関係団体代表 2名
- ・高等学校代表 1名
- ・中学校代表 1名
- ・地域住民代表 1名

令和5年度 自己評価書

～教職員研修および教職員向け「保育についてのアンケート」結果をもとに～

中央幼稚園

1. 本園の教育目標

「一人ひとりの命輝く保育をめざして」

- ・健康でたくましい心身の形成に努める。
- ・音楽や造形を楽しみ、豊かな感性をはぐくむ。
- ・絵本や物語・図鑑などに親しみ、言葉への興味と想像力を培う。
- ・いろいろな遊びを通して、共感しつながらあえる仲間づくりを行う。
- ・自主性を育て、確かな判断力を身につける。
- ・規範意識とともに、豊かな道徳性を育成する。
- ・安全教育を徹底する。

2. 本年度、重点的に取り組む目標及び計画

- ・園児の基本的な生活習慣の確立
- ・園児の個性伸長、豊かな感性の育成
- ・教師としての資質・能力の向上
- ・家庭との連携、地域社会とのかかわりの充実
- ・危機管理の徹底、安全安心な園づくり

3. 評価項目の達成及び取り組み状況

評価項目	取り組み状況	評価
保育の在り方	<ol style="list-style-type: none">1. 園の教育目標・重点目標が教職員に周知されている。2. 教職員が幼稚園教育要領を理解している。3. 教育目標・教育要領をもとに、園の教育課程を編成している。4. 教育課程、園児の実態に即して、指導計画を作成している。	幼稚園教育要領を根幹に、本園の教育目標・重点目標については、教職員に周知されている。 主任・チーフを中心に、本園の教育課程を編成する。園児の実態に即し、学年・学級および一人ひとりの発達や課

	<p>5. 施設・設備の点検を行い、園児の活動を支え、かつ安全な環境構成を維持している。</p> <p>6. 園として1年間の保育について評価し、次年度の指導計画につなげている。</p>	<p>題に応じた指導ができるように、指導計画に反映させる。</p> <p>施設・設備の定期的な点検を行う。より効果的な活用と、安全な環境維持に結びつける。</p> <p>年度末には、1年間の保育活動について教職員が自己評価し、有識者・保護者の評価も含め分析・考察を行う。全体研究を通して、次年度への展望・方向性につなげる。</p>
園児への対応	<p>1. 常に園児の健康・安全に向けた指導・配慮を心がけている。</p> <p>2. 一人ひとりの園児をよく観察し、個性を大切にされた指導・援助を行っている。</p> <p>3. できることは自分ですするという気持ちを育て、身につけてほしい生活習慣の習得を促している。</p> <p>4. 園児の年齢に応じたわかりやすい語りかけや、適切なサポートをしている。</p> <p>5. 園児をほめたり、励ましたりしながら、目当てを持たせ、更なる意欲につなげている。</p> <p>6. 職員会議等で、園児の姿や課題を互いに報告しあい、共通理解を図っている。</p>	<p>園児の健康・安全については、日々の指導のなかできめ細かな配慮を心がけている。とりわけ自由お遊び、預かり保育時の事故防止に留意する。</p> <p>基本的な生活習慣の確立、個性・自主性の伸長に努める。指導計画に沿って、園児への指導・かかわり・サポートを日々行う。目当てを持たせること、励ますことで園児の意欲につなげている。</p> <p>課題のある園児については逐一報告され、共通理解を得ている。家庭環境を含めたケース会議に至ることもある。</p>
教師としての資質・能力	<p>1. 幼稚園教諭として、専門知識や技能を身につけている。</p> <p>2. 教職員全員で、ひとつのチームであることを意識している。</p>	<p>それぞれの教職員が、主任およびチーフ・担任・フリーとして、責任をもって園務分掌・役割を果たしている。園</p>

	<p>3. 個々の教職員が、当番や役割による仕事を確実にしている。</p> <p>4. 教職員は、園児と会話をしたり遊んだりすることが好きである。</p> <p>5. 教職員は、園児のささやかな成長が理解できて、それを喜ぶことができている。</p>	<p>が組織として成り立っていることを理解することで、一人ひとりの能力が合わさり、チーム力として発揮される。</p> <p>何よりも子どもが好きである。園児の成長を保護者とともに理解し喜ぶことができる。この二点が幼稚園教諭の資質の基幹である。加えて、専門知識や技能の習得が、教諭としての成長につながる。</p>
保護者への対応	<p>1. 日々の取り組みや園児の様子を直接話したり、電話・手紙等を使ったりして保護者に伝えている。</p> <p>2. 保育参観や懇談会を行い、個々の子どもについて、日々の保育について、家庭でのあり方について、共通理解を得ている。</p> <p>3. 保護者には、丁寧な言葉と敬語を用いて語りかけ、相手の話も落ち着いてしっかりと聞いている。</p> <p>4. 保護者からのさまざまな訴え・要望・意見について、園長や主任に報告相談をしている。</p> <p>5. 園児・保護者のプライバシーに関する情報については、守秘義務を果たしている。</p>	<p>日々の園児の姿や園の取り組みを、多くの機会を活用し直接保護者に話したり、電話・手紙で伝えたりしている。</p> <p>定期的に保育参観・懇談会を実施し、園を開放することで、保護者との連携を深める。保護者の意見・要望を率直に受けとめ、日々の保育に反映させている。</p> <p>知り得た保護者からの情報については、守秘義務の徹底を図る。</p> <p>定期的に保護者会（運営委員会）が開催される。保護者会をもとにした学校関係者評価を行っている。</p>
地域社会との かかわり	<p>1. 地域の方々を園に招いたり、また地域に出向くことで交流を図っている。</p>	<p>外部講師・教材開発等により、専門分野を有する人材や多岐に渡る教材を活用する。 中学生・専門学校生の体験学</p>

	<p>2. 園庭開放・園行事参加など広く呼びかける。中学生・専門学校生の体験学習を受け入れている。</p> <p>3. 隣接する光竜寺小学校との幼・小連携を進めている。</p>	<p>習を受け入れる。関係機関の取り組みには、積極的に参加している。</p> <p>隣接の光竜寺小学校、校区の自治連合会、近隣の方々と交流を進めている。</p>
研修・研究	<p>1. 保育について、研修できる機会を教職員に保障し、研修への意欲を高めている。</p> <p>2. 公開保育・研究保育等の研修を通して、指導計画の作成、園児とのかかわり方など、保育の向上につなげている。</p> <p>3. 教材や遊具について、使い方・利用方法の研修を行っている。</p> <p>4. 障害のある園児、アレルギーへの対応および児童虐待など、今日的課題への理解を図っている。</p> <p>5. 預かり保育、子育て支援などのあり方について学習している。</p>	<p>公開保育・研究保育を行い、教諭としての資質・実践力の向上につなげる。教材や遊具および園児の安全確保に関する研修を、随時実施している。</p> <p>管外研修に対しては日時の調整を行い、教職員の参加機会を増やしている。</p> <p>特別支援教育・食育・児童虐待・預かり保育・子育て支援等、今日的課題に関する研修の充実を図る。</p>

4. 今後、取り組むべき課題

- ・教育目標・重点目標と園児実態に基づき、適切な指導計画を作成する。教職員の自己評価・年度末反省、保護者等の外部評価を通して、各クラス・子どもの活動を分析・考察する。その上で、日々の保育活動やクラスづくり、および年間計画や行事の見直しを図る。
- ・日々の保育に新しい考えや取り組みを導入するため、継続した研修・研究を行い指導力の向上に努める。
- ・今後も教職員・保護者アンケート、保護者との意見交流会および外部評価者会議を実施し、保育活動の推進・改善につなげる。

令和5年度 学校関係者評価

～運営委員会での意見交流、運営委員へのアンケート結果をもとに～

〔保育に関すること〕

「子どもは、幼稚園に行くのを楽しみにしている」

「子どもは、運動会・発表会・遠足などの行事に積極的に参加している」

「先生は、一人ひとりの子どものよさを認めてくれる」

等の設問で A(よくあてはまる)が多くあり、高い評価を受けている。園児は幼稚園に行くことを楽しみに、積極的に行事に参加している。また、教職員は一人ひとりの子どものよさを認めるなかで、園児理解に努めていることが分かる。さらに、自立心の育成を促しながら、目当てを持たせ、互いに励ましあいつながりあえる保育が成果を挙げていると思われる。

「子どもは、すすんであいさつをしている」

「幼稚園は、保育方針をわかりやすく伝えている」

では、C(あまりあてはまらない) D(まったくあてはまらない)の回答が幾つか見られる。基本的な生活習慣の確立とともに、あいさつは人間関係の第一歩という意識の定着を図りたい。保護者に園の保育方針・保育内容を適切にお伝えしながら、双方向の情報交換が必要である。情報共有に至るには、保護者の話や気持ちをしっかりと受けとめ、保育者としての考えをきちんと話し、共通理解を図ることが肝要である。

〔幼稚園経営に関するもの〕

「幼稚園の施設、設備は満足できる」

「幼稚園では、子どもに関するプライバシーが守られている」

の2項目で、よい評価を受ける。「施設・設備」では、保育の充実、子どもの安全確保に向け日々の点検を行い、「個人情報の管理」では、守秘義務の更なる徹底を図っていく。加えて、「運営委員会活動」についても、新型コロナウイルスが5類感染症に位置づけられたことにより、従前のような活動が行われている。また、「文書・事務連絡」においては、今後も適宜の送付・連絡を心掛けていく。

令和5年度 公開保育

○実施日 令和5年12月12日(火)

○実施場所 本園保育室

○参加者

【外部有識者】元 短期大学 教授

前 堺市立小学校 校長

【学校関係者】本園 運営委員長

光竜寺校区 自治連合会長

○打ち合わせ 10:00～10:15

- ・本園における造形・絵画表現のねらい・内容を確認する。
- ・発達段階に添いながら、園児の表現を認め尊重する。
- ・生活のなかの様々な形・色・動きに気づき、自分なりに表現することで、感性や創造性を培う。
- ・今日は園児の様子、指導・サポートする先生の姿を見ていただく。

○参観・見学 10:15～11:20

- ・こねこ組(年少)、ぞう組(年中)、あやめ組(年長)を中心に、各クラスの造形・絵画指導を参観する・
- ・題材 こねこ組「クリスマスツリー」
ぞう組「傘地藏」
あやめ組「クリスマスケーキ」

○意見交換・外部評価 11:20～11:50

- ・先生方は管理的にならず、園児は自主的・主体的に活動している。
- ・先生方の丁寧な指導を受け、援助と共感のなか楽しい雰囲気になっている。
- ・園児の発想が尊重され、のびのびと製作している。ピンク色のクリスマスツリーは実によい。

※表現活動においては、造形や音楽を楽しむなかで豊かな感性をはぐくんでいきたい。園児の主体的な取り組みを通して、生きる基礎となる心情・意欲を育て習慣・態度につなげていく。

〔全体のまとめ〕

外部評価者会議では、「先生が管理的にならず、園児が自主的・主体的に活動している」「先生の丁寧な指導、共感・援助のなか、園内は楽しい雰囲気満ちている」「音楽・造形表現では、園児の発想が尊重されている」等の意見をいただいた。

次年度も「一人ひとりの命輝く保育」を共通理念に、将来に向けて子どもたちの健やかな育ちの形成に取り組んでいく。保護者からの子育て相談のみならず、子育て支援にも強くなかかわっていくことが大切である。「保育・教育はまさにチームプレーである」と言われるなか、教職員一人ひとりの力量の向上に加え、園としての総和で教育力・保育力を高めていきたいと考えている。